

専門以外の勉強にも関心を

高崎経済大学経済学部への入学おめでとう。私は与えられたテーマの中から、「推薦する図書」を選ぶことにする。このテーマでは、自分の専門や関連の強い図書を選ぶのが常だろう。私は英語の教員だが、英語に関する推薦図書は選ばないことにした。

その理由は、大学時代では専門以外の勉強にも関心を持ち、広い視野を持つてほしいからである。専門知識は確かに重要だが、今後ますます複雑化する社会ではそれだけでは十分とは言えない。広い視野を持つためには、社会科学だけでなく、人文科学や自然科学を含む幅広い勉強を絶え間なくする必要があり、決して易しいことではない。大学時代は時間があるので、その時間を有効に使い、生涯教育の習慣を形成し、積極的に学習する態度を育成してほしい。

今回推薦する図書は、救急救命センターに勤務されている浜辺祐一氏の著書、「こちら救命センター」、「救命センターからの手紙」、「救命センター当日日誌」、「救命センター部長ファイル」(集英社文庫)である。どんなに健康な人でも、人生で何度か医者のお世話になるが、救急救命センターのお世話になることは相対的に少ない。だから、事実を知らない人が多いだろうし、実際に読んでみ

ると、救急救命センターでの仕事は想像を絶することがよく分かる。普通の人間ならばとても耐えられない光景が目の前に広がる。

教育現場で教えられることの多くは基本的に正解がある。そのため、学習者の中には考え方はどうでもいいから、正解を速く知りたいという気持ちまで生まれてしまう。これに対し、現実社会では正解のない問題が山積している。それでも、一般的には解決のために時間をかけて議論でき、結論も覆ることもある。だが、救急救命センターの医師には即決が必須で、後戻りもできない。患者を救うために、瞬間的に最善の方法を考え、チームで実行する。それができなければ、患者は命を落とす。こうした医師の仕事は並大抵の人間にはとても真似できない。しかし、彼らとて仕事上の悩みがないわけではない。自分たちとは全く異なる職場で懸命に働く彼らの仕事や葛藤を学び、人生や生き方に関して考え、広い視野を育成するための一助としてほしい。



■英語 ■英語音声学 | ・ II

湯澤 伸夫

(ゆざわ のぶお)

イギリス・レディング大学博士課程修了(PhD)。専門は英語音声学・音韻論。一般英語と英語音声学を担当。